

**製品名: サイクリン H (リン酸化 Thr315) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab04528**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	34 36kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CCNH
別名	CCNH; Cyclin-H; MO15-associated protein; p34; p37
遺伝子 ID	902.0
SwissProt ID	P51946
免疫原	抗血清は、Thr315 のリン酸化部位周辺のヒトサイクリン H 由来の合成ペプチドに対して産生された。アミノ酸範囲: 274-323

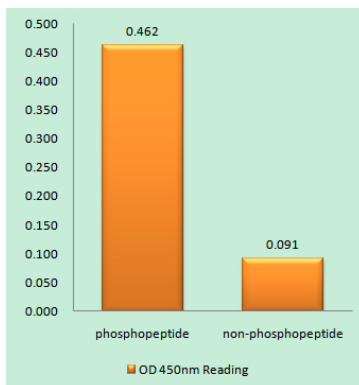
**背景**

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、高度に保存されたサイクリンファミリーに属し、そのメンバーは細胞周期を通じてタンパク質存在量の劇的な周期性によって特徴付けられます。サイクリンは CDK キナーゼの調節因子として機能します。異なるサイクリンはそれぞれ異なる発現および分解パターンを示し、各有糸分裂イベントの時間的調整に寄与します。このサイクリンは、CDK7 キナーゼおよびリングフィンガータンパク質 MAT1 と複合体を形成します。このキナーゼ複合体は CDK2 および CDC2 キナーゼをリン酸化できるため、CDK 活性化キナーゼ (CAK) として機能します。このサイクリンとそのキナーゼパートナーは、TFIIH および RNA ポリメラーゼ II タンパク質複合体の構成要素です。これらは 2 つの異なる転写制御プロセスに関与しており、基礎転写制御と細胞周期機構の間に重要な関連があることを示唆しています。この遺伝子の擬似遺伝子は染色体 4 上に存在します。選択的スプライシングによって複数の機能が発生します。類似性:サイクリンファミリーに属します。類似性:サイクリンファミリーに属します。サイクリン C サブファミリー。サブユニット: 主に CDK7 および MAT1 と会合して CAK 複合体を形成する。CAK はさらにコア TFIIH と会合して TFIIH 基礎転写因子を形成する。

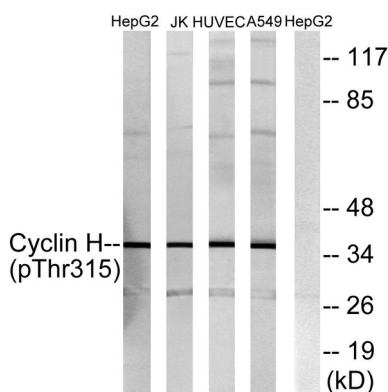
## 研究分野

ヌクレオチド除去修復;Cell\_Cycle\_G1S;Cell\_Cycle\_G2M\_DNA;

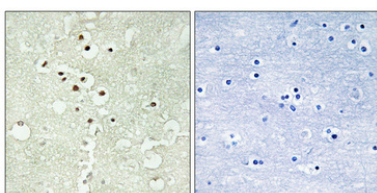
## 画像データ



サイクリン H (リン酸化 Thr315) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



HepG2 細胞、Jurkat 細胞、HUVEC 細胞、A549 細胞のライセートを Cyclin H (リン酸化 Thr315) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。

